

岡山大学

大学院教育学研究科

OKAYAMA UNIVERSITY
Graduate School of Education

● 専門職学位課程【教職大学院】(1専攻)
・ 教職実践専攻

● 修士課程(1専攻)
・ 教育科学専攻

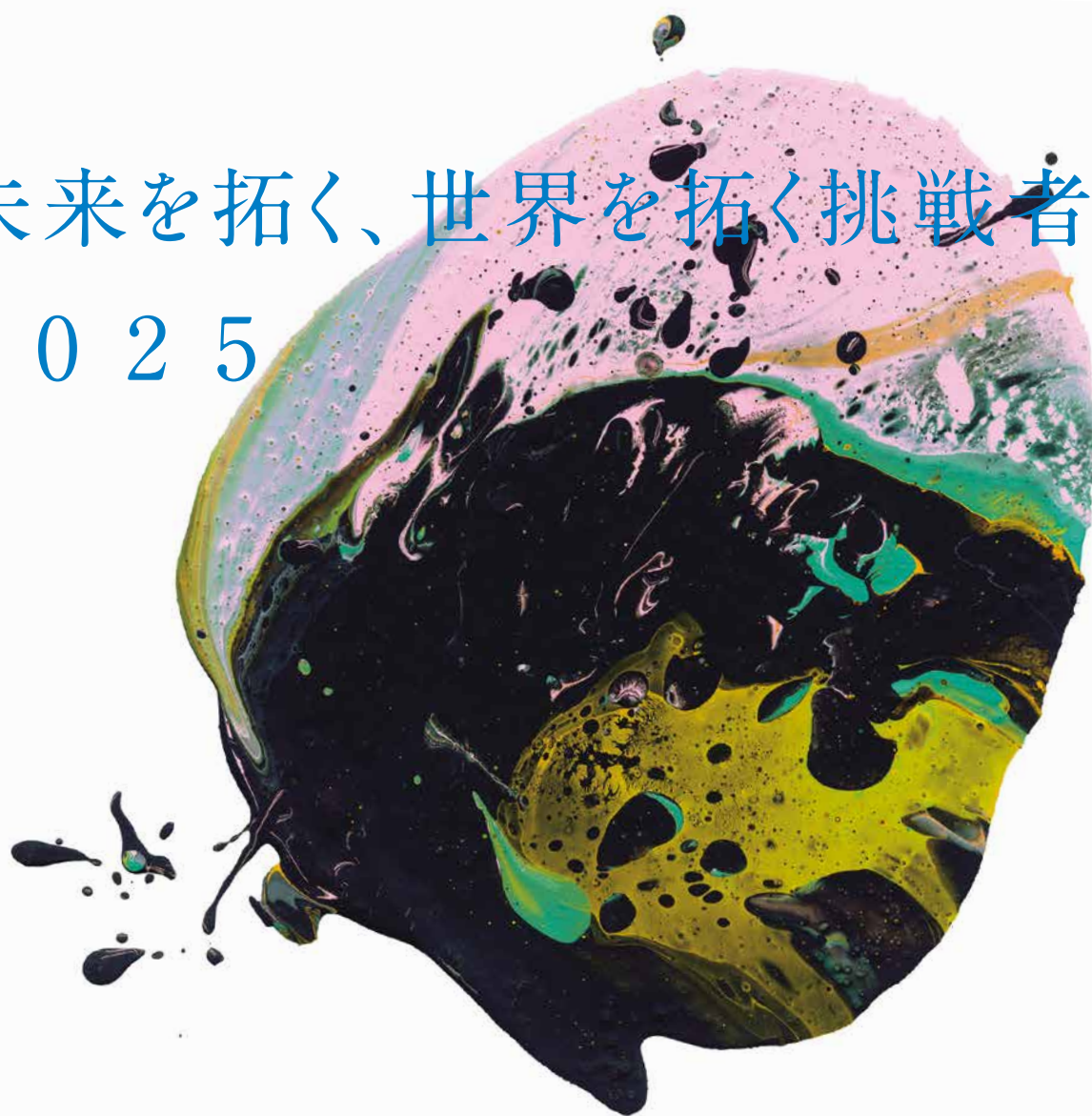


OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く

未来を拓く、世界を拓く挑戦者へ!

2025



2025年度 大学院案内

本案内に記載の「教育科学専攻」については、2025年度の開設に向けて文部科学省と協議中のため、変更の可能性があります。



大学院教育学研究科長

高瀬 淳

ごあいさつ

岡山大学大学院教育学研究科は、教育の営みを総合的に学修・研究することにより、多様な価値をもった個人や集団・社会が自らの幸福を追求していくこと(well-being)に貢献する大学院です。すべての人々が自らの幸福を追求するためには、身体的、精神的、そして社会的にも「満たされた状態」であることが必要であり、なにかが達成されたという一時的な状況・感情に留まらず、自己実現や社会改善に持続的に取り組んでいける状態をつくり出していかなければなりません。社会が急速に変化し、複雑化を増していく中で、そうした「満たされた状態」をつくり出していくための条件の一つが、教育であるといえます。

教育学研究科は、教職実践専攻(専門職学位課程)と教育科学専攻(修士課程)から構成されています。

教職実践専攻は、高度専門職業人としての教員を養成する教職大学院であり、平成20年度の設置以降、よりよい学校教育の実現に向けた持続的な取組のリーダーを輩出しています。教員の仕事は、子供や授業・学校等に関する専門的な知識や経験を習得して、それを実践に適用すればよいものではありません。絶えず変化する子供や学校の実態を把握しながら、意味のある課題設定し、その解決に向けた教育実践を行う。さらに、同僚等とともに自分や他者の教育実践をデータや事象から一般化・理論化し、授業や指導の継続的な改善・変革につなげていくことが求められます。そのため、教職実践専攻では、研究的な視座から、よりよい教育実践に持続的に取り組む「アクション・リサーチャー」としての教員の資質・能力を身につけることが目指されています。

教育科学専攻は、教育を開拓的に広く捉え、教育の可能性を拡げることを追及する大学院であり、様々な教育課題に対応できる課題解決能力をもった実践人を育成しています。教育は、公の性質を有する学校だけでなく、子供たちの健やかな育ちの基盤である家庭や人々の生活実態に即して構成される社会においても行われるものです。教育の営みは、家庭、学校及び社会といったあらゆる場所において、あらゆる機会に行われることができません。すべての人々が、従来からの専門領域・分野の枠を越えた知識や経験を相互に関連づけながら、実践的に思考・活用することを通じて、その成果を持続的に社会へ還元していくことが求められます。そのため、教育科学専攻では、個人や社会を取り巻く諸環境を理論的・実践的に分析し、そこに内在する本質的な教育課題を解決していく資質・能力を身につけることが目指されています。

岡山大学大学院教育学研究科において、教育をテーマに一緒に学ぶことができるのを楽しみにしています。

岡山大学大学院教育学研究科について

岡山大学大学院教育学研究科の目的と教育の基本的目標

岡山大学大学院 教育学研究科

教育学研究科は、教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育的実践力をもつ人材の育成を目的としています

専門職学位課程【教職大学院】

教職実践専攻(学生定員:45名)

修士課程

教育科学専攻(学生定員:37名)

教育の「未来」を拓く

〈アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)〉

専門職学位課程(教職大学院)は、学校教育に携わることへの強い使命感と熱意があり、学校教育の現状について幅広い関心を持つ人、学校教育の課題の解決に意欲を持ち、高度な教育実践力の獲得・向上を目指す人、また学校づくりの有力な一員になろうとしている人や地域・学校において指導的役割を果たすことを目指している現職教員を求めています。

〈教育の基本的目標〉

教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび地域社会に貢献できる高度な教育的実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員および学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、個々人が豊かな教育者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

〈特色〉

- ★ 10教科全ての専任教員を配置し、教科の専門的授業力育成機能をパワーアップ
- ★ 教育委員会・学校現場との強い連携
- ★ 岡山大学独自の実践力向上カリキュラム
- ★ 採用試験受験者への優遇措置

全国の自治体が、採用候補者名簿登載期間の延長(岡山県・岡山市の場合は2年間延長)や次年度以降の一部試験免除・特別の選考など、特例的な措置を講じています。



よりよい教育実践に持続的に取り組む
アクション・リサーチャーとしての教師

全教科・全学校種における中核的教員



詳しくはこちら

教育で「世界」を拓く

〈アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)〉

◎教育学学位プログラム

教育を通じて国際社会や地域社会の諸課題の解決に挑む実践力と、課題を見出し設定する探究力、他者を支援し仲間と協働するコミュニケーション力があり、さらに教育の可能性を広く深く追究するため、自らの専門領域はもちろん、関連する諸科学領域への興味・関心をもち創造的に深めようと努力している人を求めています。授与する学位は「修士(教育学)」です。

◎教育データサイエンス学位プログラム

教育を通じて国際社会や地域社会の諸課題の解決に挑む実践力と、データ解析を通して俯瞰的に事象をとらえ課題を設定する探究力、他者を支援し仲間と協働するコミュニケーション力があり、さらに教育データサイエンスの可能性を広く深く追究するため、自らの専門領域はもちろん、関連する諸科学領域への興味・関心をもち創造的に深めようと努力している人を求めています。授与する学位は「修士(教育データサイエンス)」です。

〈教育の基本的目標〉

◎教育学学位プログラム

学校・家庭・地域・職場等、人間が生活するあらゆる場における教育を対象とした諸科学を探究します。教育ならびに関連諸領域への深い理解を通して、学校リーダー及び国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員及び学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、柔軟な発想力と創造力を備えた実践者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた創造的実践人の養成を目的とした教育を行います。

◎教育データサイエンス学位プログラム

学校・家庭・地域・職場等、人間が生活するあらゆる場における教育を対象とした諸科学を探究します。教育とデータサイエンス、ならびに関連諸領域に関する深い専門的な知識をもとに、ICT・データサイエンス活用スキルを組み合わせた高度な課題解決能力を涵養し、あわせて、社会に存在する諸課題を主体的に捉え、その解決に向けてビッグデータを的確に解析・活用して有益な知見を導き出すことのできる転移可能な応用力を身につけることにより、デジタル技術の活用により様々な変革が想定されるこれからの時代を牽引する次世代エキスパート養成を目的とした教育を行います。

〈特色〉

- ★ 教育の可能性を追究する多種多様な教育科学のプロジェクトへの参画
PBL(Project-Based Learning)での課題解決型学習
- ★ 教育に関する事象を開拓的に広く捉え、視野を広げ学修・研究のできるカリキュラム
- ★ 留学生受け入れ、IB教育、国際教育を推進



国際的に活躍するために
教育専門力を活かす先駆者

企業、公務員、学校教員、大学教員、研究者、学校事務職員、
社会教育関連業種、JICA・NGO職員、起業など新たな事業



詳しくはこちら

専門職学位課程【教職大学院】 教職実践専攻

専門職学位課程【教職大学院】 教職実践専攻の概要

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoujissen/>

↑ 詳しくはここをクリック

1. 岡山大学教職大学院が目指すこと

本教職大学院は、学校教育に関する理論と実践を教授研究し、教育現場の課題について、理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし遂行できる総合的・実践的な力量（高度教育実践力）を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的としています。

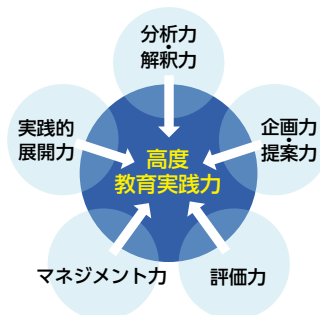


◆ いま求められる資質・能力

職能発達の違いはありますが、「初任期リーダー」、「ミドルリーダー」、「学校リーダー」に求められる基礎・基本、資質・能力としては、以下のものを構想し、育成することを目指しています。

- ① **分析力・解釈力**：理論と実践との架橋・往還によって問題の解決の方向を見通すことのできる力
- ② **企画力・提案力**：具体的で高度な問題解決を企画し、提案することができる力
- ③ **実践的展開力**：企画・提案した問題解決策を実践できる高度な力
- ④ **評価力**：教育活動・実践を客観的に評価したり反省的に思考するなどの力
- ⑤ **マネジメント力**：教育活動や取り組みを学校内外で組織的・協働的に展開できる力

■ 高度教育実践力に求められる資質・能力



2. 養成しようとする教員像

本教職大学院が養成する人材像は、「アクション・リサーチャーとしての教師」であり、教職生活全体を通じて継続的に高められていく職能発達の方向性を踏まえたものです。

- 学部段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を修得した者が、さらに学習指導や学級経営、生徒指導などに関する高度で実践的な能力を身につけ、新しい授業を構想・展開し、提案することができる「初任期リーダー」として学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、若手教員を育成する能力、及び学年や学校・地域において学習指導や、学級経営・学年経営、生徒指導などに関する指導的役割を果たす能力を身につけ、「ミドルリーダー」として地域や学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、高い視座から、さまざまな教育事象を捉え直し、「学校リーダー」として指導的立場に立ち、新たな学校づくりや地域づくりに資すること。

3. 課程修了要件とその内訳

教職大学院の修了要件単位総数は46単位です。

共通科目	選択科目	学校における実習	単位総数
26単位	10単位	10単位	46単位

注1) 共通科目と選択科目には、教科教育領域の単位がそれぞれ2単位含まれており、主免の授業力向上をめざします。

注2) 現職教員選抜を受験し、「学校における実習科目」の免除を申請する場合は、入学時審査により一部免除されることがあります。

- ◎ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。
- ◎ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を取ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

- ◎ 「1種免許状」を取得している場合は所定の単位を取得し、課程を修了すると「専修免許状」を取得できます。ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できる予定です。

5. カリキュラムの特色と構成

専門職学位課程では、理論と実践の高度な架橋・往還・融合を通じて、教職生活全体を通じて継続的に職能発達する高度専門職業人としての教員の育成を目指しています。アクション・リサーチャーとしての教師に求められる教育実践を学ぶことができるよう学校現場や教育行政との密接な連携のもと、デマンドサイドのニーズに立脚し、研究成果を学校現場に直接還元できる特色あるカリキュラムを編成しています。

◆ 岡山大学教職大学院の学びの特色

① 共に学び、共に高める

特徴の一つとして、コース制を採用するのはなく、職能発達段階の異なる学部新卒院生と現職教員院生とが同じ授業を履修し、「共に学ぶ」ということがあります。

校種や教科、これまでの経験を異にする学部新卒院生や現職教員院生が「共に学ぶ」ことで、1つの教育事象をさまざまな視点から交流し、異なる見方や考え方を共有しながら、課題の解決に向け展開されている実践に参画していくための資質や能力を、「共に高める」ことに寄与しています。こうして築いた学び合う関係性は、修了後の教職キャリアを支える貴重な人的ネットワークになっていきます。

② 学校の教育活動を一体的に捉える

学校の教育実践は、その学校の児童・生徒の実態をもとに、子供達をどのように育てたいのかという方向性、学校の教育目標を見据えて行われます。“その学校の児童・生徒にとって”意味のある教育実践を創り出していく必要があるのです。そこで、自分の専門教科に対する理解、指導力の拡充・深化だけではなく、他教科等を理解したり、学校全体の動きを見取れる視野を養うことで、学校の教育活動を一体的・総合的にとらえ、リーダーとしての高度実践的指導力を養います。

③ 教育実践のプロフェッショナルとして、自らの実践の基盤となる理論(実践知)を構築する

学校現場で経験年数を積み、それに比例して、教師として指導力も自動的に積みあがっていくのでしょうか？

教職大学院での学びは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践をおこない、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。いわば、単なる経験主義から脱却し、「経験から学ぶ力」の育成を図り今後の教職人生を通じて「学び続ける教師」の根幹を育みます。これは新卒院生でも現職院生でも共通して必要な力です。

④ 充実した専任教員と支援体制

全10教科と、特別支援教育、養護教育、教育行政・マネジメントと併せて、専門領域を深めるための科目群および指導体制を充実させています。

研究者教員、実務家教員によるオムニバス形式やチームティーチングの授業、複数教員によるゼミ指導、さらには、実習校や現任校、教育委員会、メンター等と協働した指導体制を取り入れることにより、本質的かつ多面的・多角的な学びを支援します。

◆ カリキュラムの構成

教職大学院では、「共通科目」・「選択科目」・「学校における実習」を開設しています。すべての学生が履修する「共通科目」では、今日的教育課題や教育事象について仕組みや成り立ちを学び、「選択科目」では、キャリア段階に応じた職能発達を促し、なおかつ学校現場の今日的課題に対応できる実践的理論を修得します。そして「学校における実習」において教育現場の課題に向き合い、職能成長の段階等に応じて、『課題の発見→解決→探究、問題の分析→解決策の提案』といった取り組みを「教育実践研究」で段階的に学修できるように、カリキュラムを構成しています。

6. 教職大学院で過ごす2年間

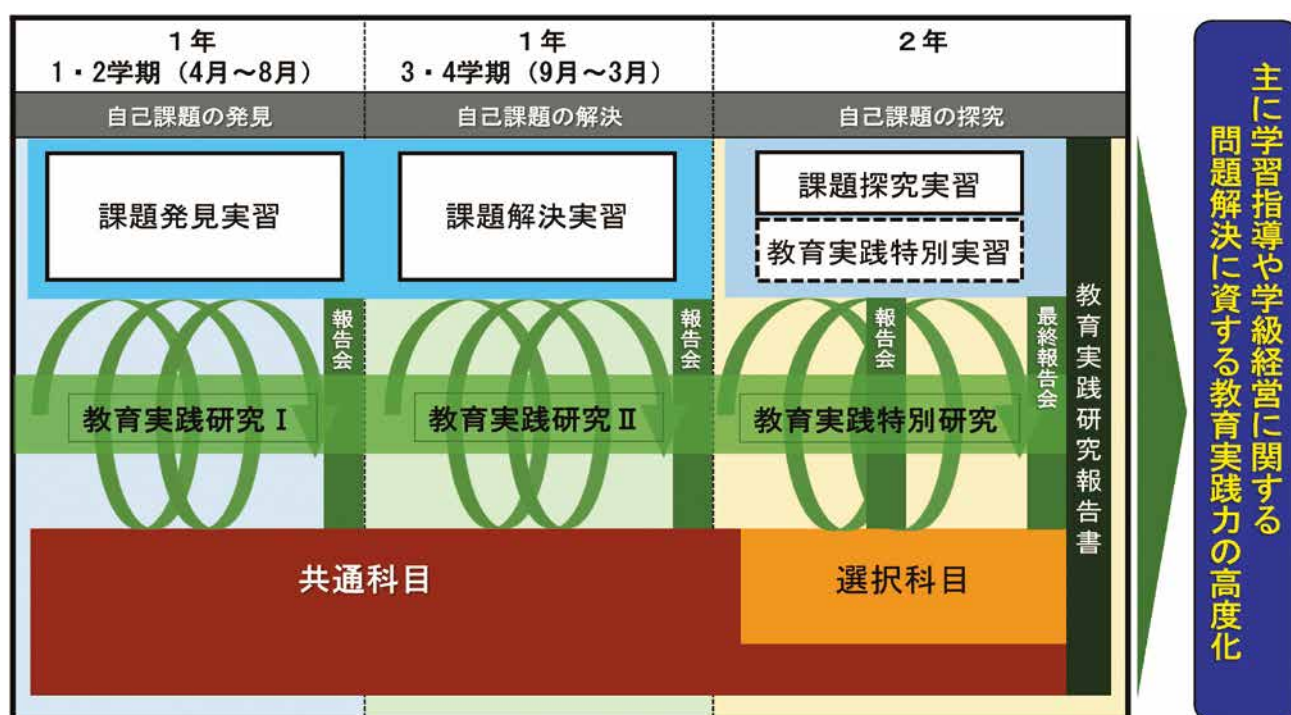
本教職大学院の学びでは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践を行い、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。

● 学部新卒学生の学び

「初任期リーダー」として高度な授業力の育成を目指す

学部新卒院生は、学習指導や生徒指導などに関わる自己課題を発見・分析した上で、その解決に向けての実践研究を深めます。したがって、選択科目は、教育課程・授業力育成に関する科目群の科目を中心に履修します。

● 学部新卒学生「初任期リーダー」のコースワーク



◆ 修了生に聞きました！ —— 林 明依（中学校・国語、他大学文学部出身）

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 先生になったときに自分は何を大切にしていくのか、その方向を見つけることができました。学校や子どもたち、あるいは実践者が異なっても、よい授業には共通点があると思います。教職実践専攻で学ぶメリットは、講義やゼミで、多面的・多角的に教育について考えられることです。さらに実習を通して、それらをより具体的に構想できるようになります。こうした理論と実践の往還する力は、今後に活かしていく力になると思います。

Q. 入学を検討している方へのメッセージ

A. 教職大学院は、専門教科はもちろん、他教科や他校種の新卒学生や現職の先生と一緒に学ぶことができます。さまざまな背景や価値観をもつ仲間たちと、院生室や講義で交流することで、自分の視野が格段に広がりました。何より、意欲的で尊敬できる仲間たちとの時間は、現場で頑張る自分の背中をずっと支えてくれると思います。

● 現職教員学生の学び

これからの未来を見据えた学校づくりを牽引する「学校リーダー」

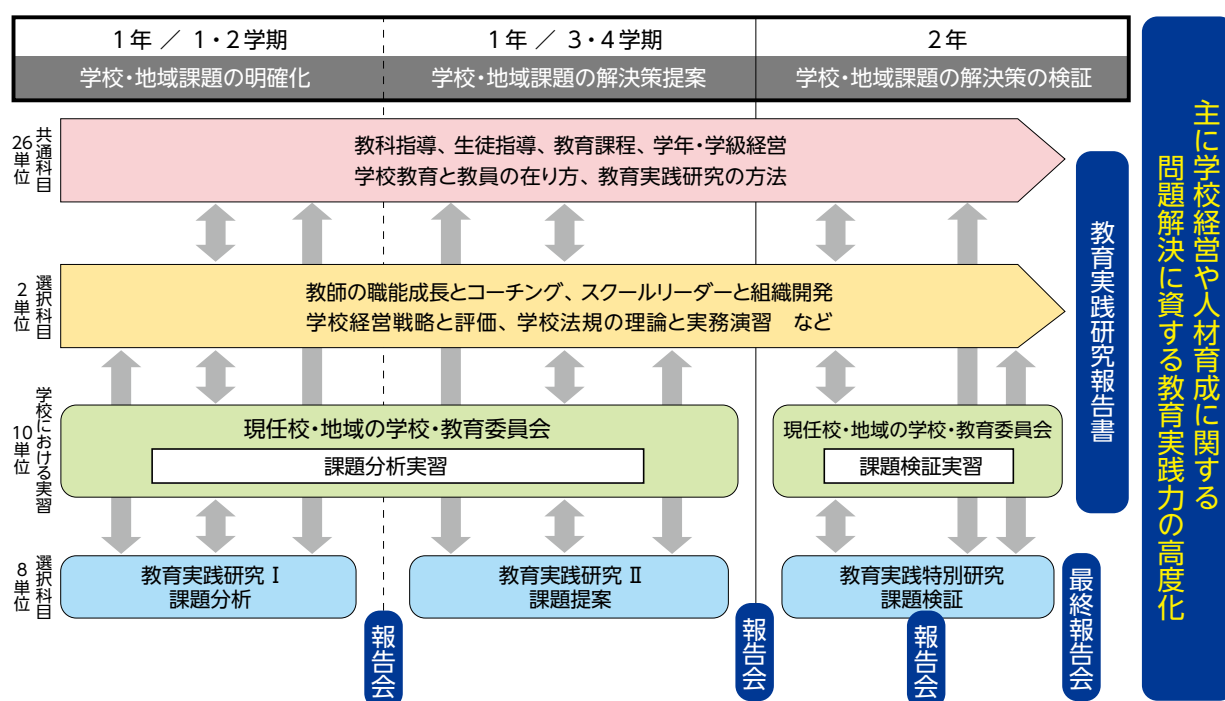
教職員集団をリードし学校改革を推進する「ミドルリーダー」を目指して

教職大学院では、学校現場の日常から少し離れた俯瞰的な視点に立ち、現任校や地域全体の教育改革という視座から、改めて学校・地域の課題を掘り起こして精選・分析し、その解決に向けて、学校や地域全体を巻き込んで実践研究を行います。

そのためには、「学校リーダー」として、戦略的なビジョンの創造・共有を舵取りし、質の高い教育の開発に向けて学習コミュニティを構築し、学校改革や地域教育の改革を推進する力も必要です。また、「ミドルリーダー」として、教科教育の指導力向上は勿論のこと、学校全体の動きを視野に入れ、教職員や保護者、地域等との協働を促すファシリテーターやコーディネーターとしての力も必要です。

そこで、選択科目では、「学校リーダー」は「学校経営戦略と評価」「教育法規の理論と実務演習」などを中心に、「ミドルリーダー」は教科経営や教師の職能成長、校内研修のマネジメントなどに関わる科目を中心に学修していきます。

● 現職教員学生「学校リーダー」のコースワーク



「学校経営戦略と評価」：学生の体験記

「学校経営に関する知識が着実に身につく、この授業を通して『学校』そのものに対するとらえ方が変わりました。例えば、SWOT分析による学校の強み・弱みの探究、カリキュラムマネジメントに基づく学校のグランドデザインの設計など、学校全体の改善を目指す上で必要不可欠な視点を得ることができたと、思います。」

「教材開発と授業デザイン」：学生の体験記

「学部新卒と現職、異教科・異校種の院生がグループを組み、模擬授業を作成する授業でした。こうした混成のグループで課題を達成できるのか最初是不安でしたが、学校教育目標や研究テーマを軸として定めることで、共通の視点に立った議論ができました。各自の専門性を活かして、よりよい授業をつくりあげる、貴重な経験をすることができました。」

「教育実践研究」：学生の体験記

「学部卒院生と一緒に、研究に関する議論や実践の省察を行っています。院生各自のテーマや対象・領域は様々ですが、研究のアプローチや方法論、内容の核心的な部分での共通性を見出せることがあり、そこから新たな知識や気づきが得られるため、とても刺激的で面白いなと感じています。」

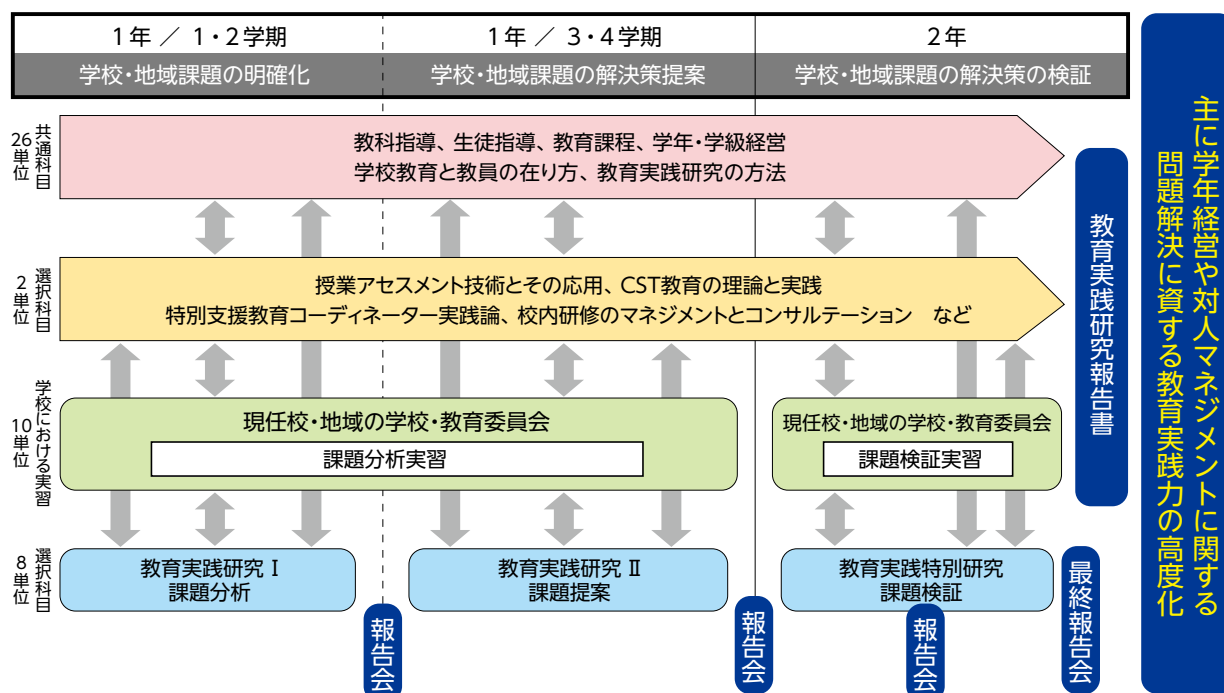
「国語に関しては、講義を聴き自分が思っていたことを、ゼミで『国語の視点で捉えるとこういうことかな』と自分で言語化して先生にみて頂いたりする中で教科の理解が深まったところがあると思います。」

実習：学生の体験記

「国語科でアクティブ・ラーニングを行うための示唆を得るため、教育関係機関で開催される講座の見学・聴講や、指導主事へのインタビューを行いました。現任校では、先生方と一緒に授業づくりや、研修会を担当しました。多くの方から支援と示唆をいただき、研究テーマと課題に取り組んでいます。」

「違う学年、教科、分掌のこと等、狭い視点で判断し切り捨てていたことが多かった自分に気づき、実習では先生方と話をしたり、色々なことを関連付けて捉えてみようということを意識してやっています。」

● 現職教員学生「ミドルリーダー」のコースワーク



◆ 修了生に聞きました！ —— 幸田 直也（加賀郡吉備中央町立吉備高原小学校）※令和5年度時点

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 私の中で一番大きく変化したことは「学校や授業を見る視点」です。今まで学校組織の一員として、当たり前のようにしてきたことや、何気なくしてきたことは本当に正しかったのか、より良い方法はないのかといったことについて問い直す貴重な機会を多く得ることができました。これは、教育現場を客観視する機会があまりない我々教員には省察しにくい課題であると感じます。授業づくりについてはもちろん、学校を組織として見直したり、視野を広げたりすることができたことは大きな財産となりました。

Q. 入学を検討している方へのメッセージ

A. 教職大学院では、岡山大学の卒業生はもちろん、他大学から進学された学生や現職教員学生など、多岐に渡るメンバーとともに、教科の枠を越えて学びを深めることができます。日々の講義の中では、教職大学院の先生方により、それぞれの専門的な研究分野の知見をもとに、様々な切り口から今日的な教育課題や自己の研究課題について問い直す「学びの場」を与えていただくことができます。教職を目指す一人として、自己の可能性、視野を広げる貴重な2年間になること間違いなしです。

7. 最終成果報告書の研究テーマ例

● 学部新卒学生

教科教育領域を中心にして、生徒指導や学級経営、特別支援教育など幅広いテーマを追究し、教育の専門家としての知恵を深めます。

- ・学習の個性化を目指すカリキュラム・マネジメント「人格の完成」概念を基にしてー
- ・統合的・発展的に考えることを通すことによる深い学びを実現する単元構成の設計
- ・数学的モデリングコンピテンシーについての一考察ーモデリングコンピテンシーの領域依存性を乗り越える指導の検討ー
- ・方程式の学習を通じた数学的アイデンティティの形成過程に関する研究
- ・中学校数学において必要性を感じさせる授業の在り方に関する理論的・実践的研究ーHarel の必要性を基にしてー
- ・「最強」の外来種を想像する中学校理科授業の考案
- ・体育の対話を用いた協同的な学びを効果的に仕組むために
- ・主体的・対話的で深い学びと体育実践ー振り返りに着目してー
- ・中学生が運動・スポーツの楽しさを学び、経験できる体育学習の実現ー豊かなスポーツライフを実現するためにー
- ・「心の豊かさ」＝「ことばの豊かさ」を志向する国語科授業の構築ーカリキュラム・マネジメントを意識してー
- ・文学教材の「語り」に着目した高等学校国語科の授業研究
- ・高等学校国語科における複数教材利用による批判的読みの力の育成
- ・言葉による歴史や文化の理解に基づく古文の授業づくりの研究
- ・足場かけ理論に基づく数学授業に関する実践的研究
- ・GRIT(やり抜く力)を育むための支援の在り方ー特別活動を中心にー
- ・小学校家庭科における安全教育について
- ・高等学校「家庭」における主体的・対話的で深い学びを目指すICT を活用した授業開発
- ・小学校社会科における社会形成力の育成ー教科横断的な視点に立った社会参加学習ー
- ・小学校社会科における地理的な見方・考え方を育成する授業デザイン
- ・高等学校公民科における論争問題学習の実践的研究ー当事者意識のある意見形成を促すためにー
- ・高等学校物理におけるコンテキストを基盤とする授業の開発と実践ー生徒の物理に対する態度 の向上を目指してー
- ・主体的・対話的で深い学びを実現させるための体育学習ー個に応じた運動の関わり方と楽しさに着目した体育授業の開発ー
- ・心理的な要因を背景として来室する児童への対応ー校内支援体制の連携に着目してー
- ・社会性の発達における感情のコントロールへの段階的介入
- ・児童の生活実態に応じた養護教諭の予防的関わりの検討

● 現職教員学生

小・中・高校、特別支援学校、また、教諭や養護教諭、管理職など、学校現場のさまざまな立場に立つ者が、学校の組織づくりやマネジメントを中心にして、学校づくりの基礎・基本と実践を軸にした省察を行いつつ、新しい基礎理論の構築を目指します。

- ・普通科におけるSTEAM教育の捉え方の提言と授業および教員研修の開発ー総合的な探究の時間の充実を通してー
- ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指してー自ら学び、思いや考えを伝え合う力を育む国語科指導ー
- ・家庭の学びと学校の学びがつながる授業のあり方ーICT の有効活用を通してー
- ・児童の学ぶ力の育成を目指した算数科における数学的表現に着目した授業づくりとその実践ー小学校統合を見据えた授業改善の取り組みを通してー
- ・主体的・自律的な学びを萌芽させる「授業と授業をつなぐ家庭学習」の探究
- ・重度・重複障害のある子供の各教科等の指導の在り方
- ・学校と教師を変える学校研究の在り方ーカリキュラム・マネジメントの視点からー



①：教職大学院のある教育学部の遠景 ②～⑤：教職大学院の院生室

教職大学院の院生室は全部で6ヶ所あり、学年間の交流や新卒院生と現職院生の交流が深まるように院生室の使用 방법이工夫されています。



中間報告会でのポスター発表。1年次と2年次で各2回の報告会を行います。院生たちは自分たちの実習校での実践内容を生かした研究成果を発表します。



通常の授業や合同省察会の中でも議論をするいろいろな場面が用意されています。互いの考えを深め合う貴重な機会となります。

8. 教職大学院進学の特典

● 学部新卒学生

◆ 名簿掲載期間の2年延長

学部4年次に教員採用試験に合格した人が教職大学院に進学する場合、採用候補者名簿への掲載期間が2年間延長される自治体もあります(例：岡山県、岡山市)。これは学部卒業後すぐに教員にならずに教職大学院で学ぶことの意義が評価されているからです。

◆ 教員採用試験の

一部試験免除・特別選考/初任者研修の一部免除

自治体によっては、教員採用試験において教職大学院生のみを対象とする選抜をおこなっているところや、教職大学院修了者への初任者研修が一部免除されるところもあります。

◆ 教員採用試験の対策

教員採用試験は教職大学院生としての価値観を発揮する重要な関門なので、教員が特に種々の指導をおこなっています。

● 現職教員学生

◆ 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制

岡山大学教職大学院では、現職教員を対象とする研修講座やセミナー等での学修を教職大学院の授業科目の履修とみなして単位を付与する制度を設けています。これにより、教職大学院を1年で修了することも可能となります。

● 学部新卒学生+現職教員学生

◆ 専修免許状の取得

1種免許状を取得している場合は所定の単位を取得し、課程を修了すると「専修免許状」を取得できます。ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できる予定です。

◆ 修了後も続くネットワーク

教職大学院にはさまざまな学修歴・教職経験の学生が、また、学校長や教育委員会等での経験を有する実務家教員、教科教育や学校に関する専門的知見を有する研究者教員がいます。授業や院生室での「学び合い」や「関わり合い」を通して、修了後も続く貴重なネットワークがつけられます。

◆ 「学び続ける教師」の根幹

教師には、教職生活を通じて自らの資質能力の向上に取り組むセルフ・マネジメント力が必要です。教職大学院での学びを通して、自の前にある課題にとどまらず学校の教育活動を総合的に捉えたときに浮かび上がる本質的な課題を発見し、その解決に取り組むための資質能力を身につけることができます。

9. 修了生の進路状況(新卒院生のみ)

(入学年度) \	小学校	中学校	高校	中学・高校	特別支援	その他
令和元年度	5	8	7	1	0	0
令和2年度	11	8	10	2	1	0
令和3年度	10	1	4	0	0	4



「教育の力」とは何だろう

私たち教育科学専攻は、その解を、常に問い続けています。学校教育だけでなく、あらゆる場所、あらゆる時、あらゆる人に教育は存在し、変容をもたらします。人と人との相互作用には、必ず何らかの「教育」が存在すると言えるかもしれません。教育科学専攻は、教育を開拓的に広く捉え、教育の可能性を広げることを追及する新しい修士課程です。

社会的包摂と教育、コミュニティと教育、学校での新しい教育の模索、生涯教育、グローバルな教育格差と教育支援、全ての人のための創造性教育、各種学問分野の専門的知見の追及と教育との融合、人の幸福と教育。私たちは、教育に関わる事象を広く、柔軟かく捉えて「教育の力」を探っています。そのために、専門性や属性の異なる多様な学生や大学教員が、ダイナミックに意見を交わし、協働し、プロジェクトを通じて教育科学を追及しています。

他の研究科ではありえない程多様な専門家がすぐ側にいるという教育学研究科の特長を活かして、あなたの可能性を広げてみませんか？ 新しく開発した充実した学修プログラムと研究環境を準備して、あなたをお待ちしています。

あらゆる場所、あらゆる時、あらゆる人に「質の高い教育」を実現することは、世界で大きなうねりになっている、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)、特に Goal4を実現することでもあり、教育科学専攻修士生は貴重な人材として多方面で期待されています。次の時代教育科学を、あなたと一緒に創りたい。それが私たちの願いです。



教育科学専攻の概要



1. 教育上の理念、目的

修士課程は、教育に関する様々な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、そこに見いだされる課題を実証的・体系的に教授研究し、教育科学の発展に資するとともに、豊かな学識と高度な課題解決能力を備えた人材を養成することを目的としています。

2. 養成する人材像と課題解決の資質能力

修士課程には、二つのプログラムがあります。それぞれの学位プログラムでは、次のような人材を養成します。

【教育学学位プログラム】

○養成する人材像

教育ならびに関連諸領域に関する深い専門的知識とGIGAスクールやICT環境に関する汎用的な知識を持ち、教育に関する高度な知識と教育実践力をもとに、地域社会・国際社会に存在する様々な課題を科学的観点から批判的に捉え直し、対応可能な解決案を立案したり新たな価値創造のために積極的に行動するなど、教育専門力を活かして国際的に活躍する先駆者を養成します。

【教育データサイエンス学位プログラム】

○養成する人材像

教育とデータサイエンス、ならびに関連諸領域に関する深い専門知識をもとに、高度な課題解決能力とトランスファラブルな力を用いて、地域社会・国際社会に存在する様々な課題を科学的観点から批判的に捉え直し、データサイエンスをベースにした最適解や新たな価値創造に係る有益な知の創出をするなど、専門的な教育データサイエンス力を活かして社会構造全体を俯瞰し、デジタル社会を積極的に牽引できる人材を養成します。

3. 修了要件とその内訳

修士課程の修了要件単位総数は34単位以上で、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件です。

教育学学位プログラム

研究科共通科目	大学院共通科目	プログラム専門科目		大学院共通科目 (課題研究)	計
		課題解決型 科目	講義・演習 科目		
1単位	3単位	8単位	18単位	4単位	34単位

教育データサイエンス学位プログラム

研究科共通科目	大学院共通科目	プログラム専門科目		大学院共通科目 (課題研究)	計
		教育専門科目	教育データ サイエンス科目		
1単位	3単位	13単位	17単位	4単位	38単位

注) 大学院設置基準第14条を適用する現職教員等における授業科目(課題研究を除く)の履修方法については、研究科共通科目、大学院共通科目及びプログラム専門科目の科目区分にかかわらず、30単位以上履修することとします。

- ◎ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。
- ◎ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を採ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

- ◎ 現在、1種免許状を所有していれば、必要な単位を修得することで、専修免許状を取得することもできます。
ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できません。基礎免許のみ専修免許状を取得できます。
- ◎ 学部の授業を科目等履修生として履修することで、新規に免許を取得することも可能です。

5. 教育課程及び、カリキュラムの特色と構成

◆ 教育課程の特色

教育に関する人文・社会・自然科学的な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、個人や社会に直面する様々な事象について実証的・体系的に研究し、そこに見出される課題を解決するとともに、その成果を教育現場や広く社会にアウトプットすることができる総合的な実践力の育成に有効な教育課程としています。

◆ カリキュラムの特色とその構成

カリキュラムでは、同一の授業内容を複数の教員が分担して担当するオムニバスや、複数の教員が同時に担当する協働（チームティーチング）の形式を採る授業科目が多く設定されています。

オムニバスによる授業は、一つの現象を多角的・多面的に捉える視点を提示する上で効果的な授業形式で、学生がそれぞれの観点から個別課題を把握・設定し、その総合的な理解や適切な解決に向けた考察を促すことを意図した授業科目において採られています。

協働による授業は、様々な問題の根底にある本質的な課題を発見・分析する上で有効な授業形式で、学生が教員と直接的・対話的に関わりながら、その課題解決に向けた取組を主体的に見出していくことを意図した授業科目において採られています。

教育科学専攻の大きな特徴は、**PBL※**による学修です。大学院生の着想を活かしながら、教育科学プロジェクトをベースにPBLで学修を進めていきます。

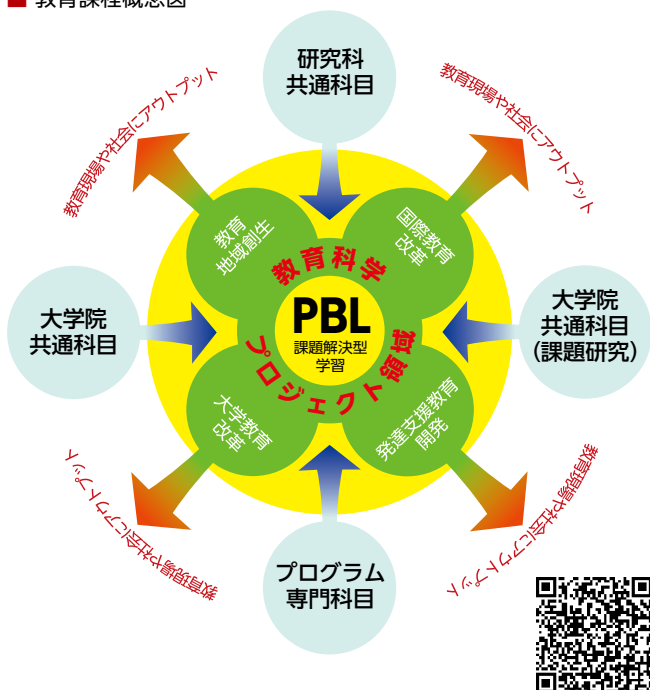
また、各自が培ってきた専門性をさらに深めたい場合は、多様な教授陣による豊富な専門科目群が準備されています。

※ PBL (Project-Based Learning)

学問の体系性を踏まえつつも実践性を重んじたアクティブ・ラーニングであり、学習者自身が主体的に課題を設定し、その解決に向けた実際の取組に携わりながら、社会との関わり合いの中で学問諸領域の専門的な知識・技術や未知の状況に適切に対応できる思考力・判断力・表現力等の学びに向かう力を身につける上で効果的な課題解決型学習。



■ 教育課程概念図



◆ PBLの目的

教育科学専攻のPBLでは、教育科学を活かして、大学院生が主体的に社会に存在する課題を見出してその解決を目指す営みを通じて学修します。ここでの「社会」は、学校内外を含む地域社会、発展途上国を含む国際社会、大学教育、企業、行政など多方面の場を想定しています。教育科学の知識や方法を修得し、実践的課題にそれらを応用して課題の解決に取り組むことができるように以下の4点を目的としています。

- ① 教育科学やチームプロジェクトに取り組むために必要な基礎的理論を修得する。
- ② 修得した理論をふまえ主体的に課題を設定して教育科学プロジェクトを遂行する力を修得する。
- ③ 現代的教育課題に関わる課題に取り組むため、最新の研究成果や社会情勢を理解する。
- ④ 学校と学校外との連携が重要となるこれからの時代を見据え、修得した理論や手法を社会の課題解決のために応用できる。

6. PBLとカリキュラム及び、その流れについて

◆ PBLの概要とカリキュラム

教育科学専攻では、学校教育以外でも教育が広く人と社会を支えていることを重視し、教育の新しい価値を提供し、世の中を支える教育科学の可能性を追究することを目指しています。そのため、教育科学専攻では、**修士論文の研究とプロジェクト基盤学修(Project-Based Learning : PBL)**を二つの柱として学修が構成されています。

PBLでは、専門の異なる大学院生がチームを組み、教育科学に関するプロジェクトを企画立案・実施し、実践を通して教育の可能性を拡げることが学びます。プロジェクトを構成する力は、社会人として大変重要な資質・能力であることはもちろん、次代を担う研究者としても必要な資質・能力です。

教育科学専攻のPBLは、教育科学PBLのコアを構成する「**教育科学の理念と今日的課題B**」「**教育科学プロジェクト研究概論**」「PBL I、II、III」と、それを支える**プログラム専門科目(課題解決型科目)**から構成されています(図1)。

PBLのプロジェクトは、1年次の一年間の期間で実施します。その流れの概略を図1に示します。

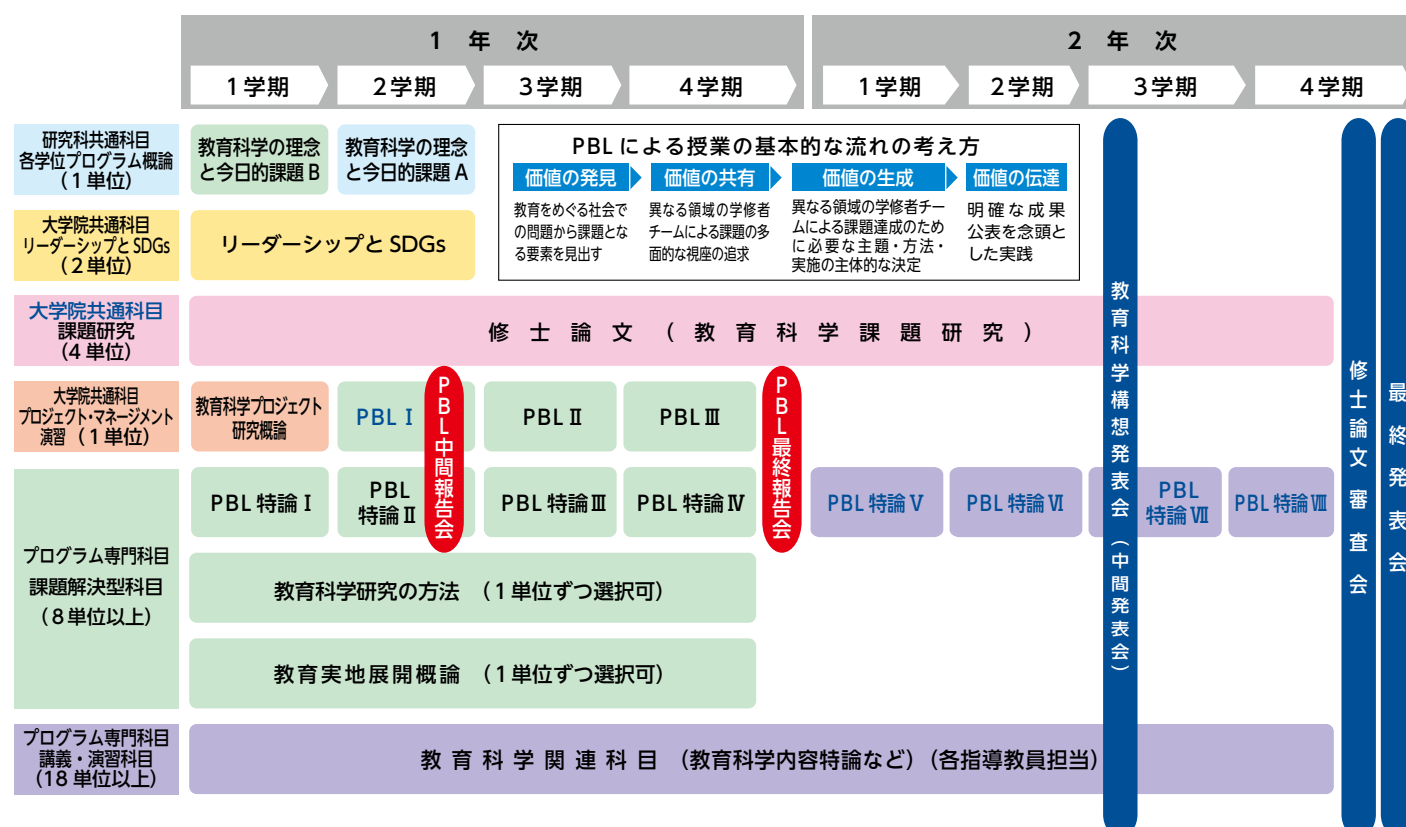
1学期には、教育科学とは何か、教育を広く柔軟に捉えて各自の専門性を活かすために何が必要か、チームを構成するために必要なことは何か等を講義や議論や演習を通じて学びます(「教育科学プロジェクト研究概論」及び「PBL特論I」)。その過程で各自の問題意識を整理し、PBLでターゲットにするプロジェクトを絞り込みチームを構成します。また、専攻教員がオムニバスで多様な専門分野を紹介し、教員と自由に意見交換する授業(「教育科学の理念と今日的課題B」)を設けており、教育科学に対する様々な切り口のヒントを学ぶことができます。

2学期には、チームでプロジェクトの企画立案を進め、年間計画も策定し、必要に応じてフィールド調査、文献調査を進めます(「PBL I」及び必要に応じて「PBL特論II」)。問題から課題への移行と、プロジェクトがもたらす成果の価値についてしっかりと議論し、目標を定めます。以上を**PBL中間報告会**でチームで発表します。

3学期、4学期は、プロジェクトの実施と検証と評価を進めます(「PBL II、III」及び必要に応じて「PBL特論III、IV」)。ここでは、想定外の事象が起こる場合もあり、人的・物的各種外部資源も活用しながら、1週間ごとの週報を元にチームで主体的に前進させることが重要になります。

PBLの締めくくりとして、**PBL最終報告会**を設けています。教育科学を活かしたプロジェクトの成果報告や、各々が獲得した能力等を省察する機会を設けます。

■ 図1／カリキュラム構造(例：教育学学位プログラム)



■ 表3／プログラム専門科目の内容

教育科学研究の方法	教育科学研究の方法 (研究・研修上の倫理、法規、行政)	教育科学の研究活動における研究倫理の理解を深める。教育行政の理解を深める。
	教育科学研究の方法 (調査法、実験法)	教育科学の研究活動には欠かせない、人の変容を測定する方法の基礎を学修する。心理尺度、行動データの扱い。
	教育科学研究の方法 (教育科学とICT)	教育科学とICTについて理解を深める。ネット社会で必要な技術、規制、倫理について理解する。
	教育科学研究の方法 (教育と地域・起業)	教育科学の成果をふまえて、地域社会や企業・団体での教育の役割を学ぶ。学童保育、スポーツ経営学、社会教育、フリースクール、企業、行政で活躍する方々から学ぶ。
教育実地展開概論	教育実地展開概論 (教育と地域創生)	地域社会と教育の関わりの事例とその理念を学び、学校等が地域創生に果たす役割を理解する。芸術文化資源の活用を検証する。
	教育実地展開概論 (家庭生活と教育の多様性)	日本の家族の現状、機能とその変化を学修し、多様な環境における子どもに対する教育上の配慮と支援について、家庭・学校・地域社会の連携の視点から考える。
	教育実地展開概論 (ESD)	新学力観や教育の社会的役割を多面的に理解する視点をESDを通じて養う。
	教育実地展開概論 (国際教育比較)	日本を含め、国際バカロレア(IB)教育、APEC教育フレーム等、世界の最新の教育改革動向と先進国と途上国の教育課題の理解を深める。JICAを中心とした国際教育支援のポリシーや課題を学ぶ。
	教育実地展開概論 (教育のグローバル化)	教育科学の成果を理解したうえで、グローバル化の進展にともない、学校や地域において生じている様々な問題や、その問題の解決のために行われている政策の実例を、近年の教育理論を背景に学ぶ。

以上のPBLのコア部分と並行して、教育科学を支える**プログラム専門科目**を設けています。表3に示すように、教育の可能性を拡げることができる講義や教育科学を探究するために必要な基礎的な技能を学ぶ講義で構成されて1、2学期に履修することで、教育科学PBLを進める手掛かりとなる視座や能力を獲得できるようになっています。

さらに、**プログラム専門科目**は、多様な専門分野が学べる多くの授業が準備されています。修士論文の研究や教育科学PBLを行うために必要な各種専門領域を深く学ぶことができます。また、「PBL特論Ⅱ～Ⅳ」は、プロジェクト実施のための各種フィールド調査や実践に対応できるように、各プロジェクトと連動して随時開講されます。専門科目には専修免許に対応する授業も準備されており、必要に応じて履修することで専

修免許も取得できます。ただし、専修免許取得に必要な要件や対応免許種等については確認が必要です。

また、2年次に開講される「PBL特論Ⅴ～Ⅷ」は、1年次が受講するPBL関係の授業の企画・実施に参画することで、授業者として知見を学ぶことができます。

なお、幼児教育、養護教育を中心に学修する大学院生は、共通基礎科目と発達支援系専門基礎科目を履修することでPBLを構成することも可能です。上述のPBL関係授業を組み合わせることも可能です。

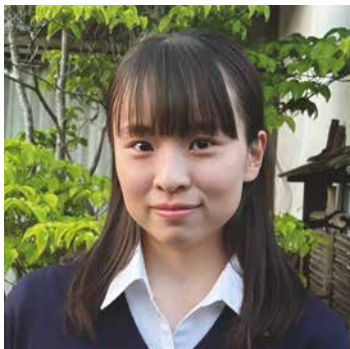
専修免許取得との関係もありますので、指導教員と相談のうえ履修形態を確定することになります。

7. 2024年度在校生へのインタビュー & 修了生の声

山田 愛梨

YAMADA Airi

2024年4月 修士課程入学



Q: 岡山大学大学院に入られる前は何をされていたか？

岡山大学教育学部に在籍し、小学校教育を専門に学んでいました。また、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、中学校教諭(社会科)一種免許状を取得しました。

Q: どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

教育の可能性を広げる多種多様な教育科学の学修・研究ができるところに魅力を感じたからです。小学校教諭を目指す者として、今日のエ

Q: PBLを受講してどうですか？

国籍も専門領域も越えた仲間とともに学び研究することで、自分の世界が広がったように思います。特に、多様な価値観をもつPBLメンバーや高い専門知識を有する先生方、お力添えくださる機関・企業の方々との議論は、新しい考え方を獲得したり自分の考えを深めたりするきっかけとなりました。正解がない課題に取り組んでいく不安や難しさはありますが、それ以上に仲間と協働する楽しさや充実感に溢れていると感じています。

Q: どのような研究を予定していますか？

「体験活動が子どもの自尊感情にもたらす効果」について研究を進めています。学校行事の宿泊体験に着目し、子どもの意識がどのように変わるのか、効果的な体験プログラムはどのようなものかを明らかにしたいと考えています。そのまま教育の現場で活用できる研究を目指したいと思っています。

Q: 岡山大学修了後、将来のキャリアは？

子どもたちとともに歩むような小学校教諭を目指しています。岡山大学大学院で培った力を生かして、子どもたちが「自分らしさ」を大切に

Q: 最後に、一言、お願いします。

岡山大学大学院での学びは自分自身の人生の糧になると信じています。この貴重な機会に感謝しながらチャレンジ精神旺盛に学び続けていきたいです。

柴田 未央

SHIBATA Mio

2023年4月 修士課程入学



Q: 岡山大学大学院に入られる前は何をされていたか？

岡山大学の教育学部で技術科を専門に学んでいました。中学校技術科の第一種教員免許状を取得しました。

Q: どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

正直、大変なことが多かったですが、しかし、高い専門性を持った方がグループ内にたくさんいるため、コミュニケーションをとっているうちに、グループのために自分が何ができるかを考えていくうちに自分が成長しているはずだと。また、自分の頑張りや質的構築によって評価されることも成長が視覚的に確認できて良かったと思います。

Q: PBLを受講してどうですか？

どの授業も単に知識を入れるのではなく、広い視野を持って一つのテーマをじっくり考えることができます。幅広い情報を整理して、批判的に捉えていく思考が鍛えられると同時に、年齢も背景も多様な方々と議論することで思考を広げる面白さを感じています。

Q: どのような研究を予定していますか？

「体験型の重力学習に関する教材開発」というテーマで研究を進めています。重力という捉えにくい概念を体験的に学習することで様々な感覚から学習できるという教材を開発しています。ICT化が進む教育現場において、より効率的に学習を進められるものを作成したいと考えています。

Q: 岡山大学修了後、将来のキャリアは？

教育科学専攻で身につけた問題解決力を活用できる業種で働きたいと考えています。私が提案する問題解決によって誰かの生活が良くなってほしいです。

Q: 最後に、一言、お願いします。

教育科学専攻は、自分の想像を超える学びが得られる可能性にあふれた場所だと思います。自分と専門が違う方や留学生の方も多いのでいろんな刺激を受けて、自分ができるアウトプットをどんどん磨いていってください。

本田 桃子

HONDA Momoko

2021年4月 修士課程入学

2023年3月 修了



Q：岡山大学教育科学専攻に入られた理由(きっかけ)は何ですか？

岡山大学教育学研究科に入学する前は、岡山大学の教育学部に在籍しており、4年間教師になることを夢見て、教育に関する様々な勉強をしていました。その中で教育科学専攻を選択した理由は2つあります。一つは、学校という現場レベルのみで教育を捉えるのではなく、広い視野を持って教育という分野を知った上で教職につきたいと感じたことです。もう一つは、大学時代に専攻していた体育社会学に対して学問レベルで学びを深めてみたいと感じたことです。具体的な実践だけではなく、体育という事象を社会との関係の中で学べる場を探した結果、進学を決めました。

Q：教育科学専攻での日々はいかがでしたか？

教育科学専攻での日々は、私にとって大変充実しており、大学時代学んできたことを改めて学び直す機会になったと感じています。高い専門知識を持つ先生方の講義や、学ぶことに対して意欲的で様々なバックグラウンドを持つ同期に囲まれながら、教育という学問について学びを深めることで、より広い視野で思考を深めることができました。そして、今まで当たり前になっていて疑問を持つことがなかった事柄についても、多角的な視点を持ってクリティカルシンキングができるようになりました。

Q：教育科学専攻での学びは、今のお仕事に役立っていますか？

教育科学専攻の2年間を通じて学んだ物事の捉え方は現在の仕事にも大変役立っています。学校教育に対するネガティブなイメージが流布している世の中ですが、学校現場の中で様々な事象に対して疑問を持ち、学ぶ姿勢を失うことなく、改善しながら仕事に向き合うことができていると感じています。もし学部卒ですぐに教員になっていたら、世の中の流れに振り回されていたかもしれません。現場の中で少し離れて物事を俯瞰的に捉えられるようになったことは、仕事をする上でも人生を豊かに過ごす上でも財産となっています。

Q：教育科学専攻への進学を考えている方へ、一言、お願いします。

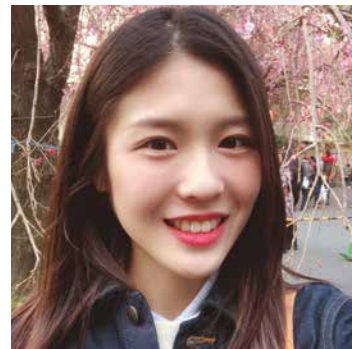
2年間の修士生活は「教育」という学問について、より深いレベルで学ぶことができる場であったと思います。今まであまり疑問や批判を持つことなく過ごしてきた学生生活でしたが、2年間を通じて、物事に対する考え方や感じ方が大きく変化しました。自分が経験してきた学校教育とはまた異なり、更に広い視野で「教育」を考える事のできる貴重な場です。ぜひ挑戦してみたいと思います。

陳 依文

CHEN Yiwen

2021年4月 修士課程入学

2023年3月 修了



Q：岡山大学教育科学専攻に入られた理由は何ですか？

岡山大学教育科学専攻に入学する前、私は中国の幼稚園で教師として働く経験を積みました。その時に、病気を抱える子供たちと深いつながりを築き、教育がすべての子供の発達にとって極めて重要であること、特に特別なニーズのある子供たちにとってはさらに重要であることを深く理解しました。この経験から、病気のある子供たちのためにより良い教育的支援を求め、彼らの助けになる研究を行いたい気持ちが湧きました。岡山大学は教育学の分野で豊富な研究リソースを有しており、特に特別支援教育の専門分野では価値ある研究機会が提供されています。ここは私にとって理想的な学術の場であり、特別支援教育の最新の理論と実践を深く掘り下げる機会を提供してくれます。この専攻を通じて、自分の専門力を向上させるだけでなく、特別支援教育の現状を改善するために一助となることを願っていました。岡山大学教育科学専攻の学術的な雰囲気や研究の進展を考えると、ここが私の研究目標を達成する理想的な場所であると思いました。

Q：教育科学専攻での日々はいかがでしたか？

教育科学専攻での日々は非常に充実していました。特に指導教授のゼミに参加することで、学術的な成長や新しいアイデアの獲得に貢献しました。中国の幼稚園での教師経験から得た感情的な洞察や、学問的な視点で深め、特別支援教育における課題への理解をより広げることができました。ゼミでは、指導教授や同じ専攻の仲間たちとの密なコミュニケーションを通じて、教育の最前線での問題や新しいアプローチについて積極的に議論しました。これにより、異なる視点からの意見を収集し、自らの研究やアイデアをさらに洗練させる機会となりました。また、研究科の発表会や学会発表への参加も積極的にを行い、実践的なスキルの向上と同時に、専門的な知識を深めることができました。これらの経験が、将来的な教育分野での貢献に向けて、確かな基盤を築く一助となりました。

Q：教育科学専攻での学びは、今のお仕事(学業)に役立っていますか？

現在私は博士課程に在籍しており、将来は大学の教員として働くことを目指しています。修士課程での経験は、研究能力を確立する上で重要な基盤を築いてくれました。特に、論文の書き方についての理解が深まりました。発表会への参加や論文の執筆を通じて、体系的な思考や独立した研究能力を養うことができました。文献の効果的な収集と分析、課題の抽出、明確な研究問題の提示、論文構造の構築、そして研究結果を明確かつ正確な言葉で表現する方法を学びました。これらのスキルは、大学での研究と教育活動において重要であると思います。したがって、教育学研究科での経験は、博士課程および将来の大学教育において、論文への理解、執筆、そして研究能力の育成に対する価値ある経験と基盤となっています。

Q：教育科学専攻への進学を考えている方へ、一言、お願いします。

教育科学専攻へ進学を検討している皆さんへ、この専攻は実用的な教育課題に対処し、学びの質を向上させる手段を提供しています。自分の教育への熱意を活かし、未来の教育分野でのキャリアに向けてスキルを磨いていくことができると思います。ぜひ、実践的で意味のある学びを追求してください。

8. 2023年度 / PBLチームによるプロジェクト内容

1. 「豊かさ」の創造チーム
「体験格差解消に向けたファシリテーションについて」
2. 科学的根拠を基にした学習支援グループ/チームLSS
「認知カウンセリングー学習観と学習動機の指標を活用してー」
3. 教科横断的統計学
「大学におけるデータサイエンス教育の在り方ー本学の授業分析を通してー」
4. Global Citizenship
「国際理解を目指した言語教育の構想ー高校生に向けた中国語授業での実践を通してー」
5. 高大連携
「教育学研究科における高大連携の推進」
6. 自遊場
「大学キャンパスの自然を活用した遊びの創造」
7. 性教育・Sex Education
「生と性に「むきあう」私たちのプロジェクト」

9. 2023年度 修士論文

第4期生の2年間にわたる教育科学の学修成果として
修士論文の要旨を右の報告書に掲載しています。
多様な専門分野が集まる教育科学専攻らしい
多様な研究に取り組んだ様子がわかります。

報告書には、
2023年度の各PBLチームによるプロジェクトの概要も掲載しています。



● PBLチームによるプロジェクトや修士論文の要旨はQRコードからご覧いただけます。

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoukagaku/wordpress/do/>



10. 修了生の主な進路先

● 企業

(株)ベネッセコーポレーション、(株)パルテックス、菅公学生服(株)、シミックヘルスケア・インスティテュート(株)、マックスバリュ西日本(株)、(有)コモエスタ、西南財経大学天府学院、似鳥(中国)投資有限公司、天満屋ストア(株)、新来島サノヤス造船(株) 等

● 大学・研究機関

岡山理科大学、川崎医療福祉大学、福山大学
進学:岡山大学大学院、九州大学大学院、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科、広島大学大学院、名古屋大学大学院、中山大学大学院(中国) 等

● 教育機関(大学以外)

岡山市立吉備中学校、津山市立北陵中学校、佐用町立上津中学校、横浜市西寺尾第二小学校、宝塚市高司小学校、出雲市立平田小学校、安芸市立広瀬小学校、有田市立港小学校、岡山県立早島支援学校、岡山市立牧石小学校、私立倉敷高等学校、私立伊万里幼稚園(認定こども園)、京都教育大学附属幼稚園 等

● 公務員

岡山県警察、岡山県庁 等

11. 修士課程 教育科学専攻への要望、期待(要望書等の抜粋)

株式会社 山陽新聞社

岡山大学大学院教育学研究科が進められている改組につきましては、社会が抱える様々な課題に教育を通じて関わることのできる高度な問題解決力を有する人材育成を目指すものと認識しております。現在、複雑化・多様化している学校教育に関する専門知識を持つだけでなく、地域社会への強い関心と様々な課題に対応できる資質と能力を有した人材は、多くの企業にとって求められる人材であるといえます。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、地域が求める人材像と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく地方創生の観点からも、改組を早期に推進するとともにさらに連携を強化していただくよう要望いたします。

公益財団法人 福武教育文化振興財団

予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、まさに地域社会や子ども公共性を有する組織・団体が求める人材像と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育・文化を通じた地域創生の観点からも、大変有益なものと認識しております。

つきましては、改組を早期に推進するとともにさらに連携を強化していただくよう要望いたします。

一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会

カンコー教育ソリューション研究協議会は、学校とともに夢と学びを育み、学校のパートナーとして教育現場の課題解決をサポートすることを理念として事業を推進しているところです。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育科学プロジェクトは、まさに私どもが目指す事業理念と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育を通じた地域創生の観点からも、改組及び連携を早期に推進していただくよう要望いたします。

(特非) 日本放課後児童指導員協会

放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の指導員が高度な専門性を修得できるプログラムや講座等を岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

全国公立小中学校事務職員研究会

一定の経験年数を有する事務職員には、校長の学校経営を理解し、適切に支えていく役割が期待されることから、大学レベルの高度な研修を受ける機会が必要であると考えます。

つきましては、事務職員が教育に関する学修を主体的・自主的に進めていくことのできる教育内容を有するプログラム等を岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。

https://edu.okayama-u.ac.jp/admission/graduate_school/



・岡山駅乗り換え、津山線「法界院」駅下車、徒歩10分

・岡山駅運動公園口 (駅西口) から 岡山バス〈岡山理科大学〉行に乗車、岡大西門 下車

・岡山駅後楽園口（駅東口）から
岡電バス〈御野校前・妙善寺〉行又は〈榊原病院前・妙善寺〉行に乘車、岡大東門 下車

※ 本路線は市内を廻るため時間がかかります。



学 章

Tel.086-252-1111 (代表) ※内線:7604、7605

編 集 : 岡山大学大学院 教育学研究科・企画広報委員会

https://edu.okayama-u.ac.jp/graduate_school/



岡山大学大学院教育学研究科

檢索